



中央区西支部近況 ―「和を大切に」を 受け継いで―

札幌市医師会中央区西支部 広報部長
ねむの木クリニック 院長
大久保 敏彦

札幌市医師会中央区西支部は、昭和57年4月に発足し、昨年、創立30周年を迎えました。会員数は、発足時には約200名でしたが、平成25年4月現在では481名と倍を越えるまでに成長しました。

初代支部長を務め中央区西支部の礎を築かれた藤田平次郎先生の「和を大切に」の基本方針は、その後支部長を務められた横田一郎先生、山崎生久男先生に引き継がれ、現在二期目を迎えた中橋泰之支部長も機会あるごとにその「和を大切に」を口にしながら支部役員会をけん引し、そのお蔭もあって、支部役員会は、毎回ほぼ全役員が出席し自由に意見を言える場となっています。当支部では、さまざまな機会に互いの忌憚のない意見を言い合い、病診連携、診診連携の充実を図って市民の皆様により良い医療を提供できるように取り組んでいます。

運動不足解消や情報交換の機会となるゴルフですが、今年は当支部が札幌市医師会親睦ゴルフ大会の開催担当支部となっていることもあって、一昨年優勝、昨年準優勝の実績から“飛び石二連覇？”なる言葉をスローガンに大会をより充実したものにすための打ち合わせが行われています。毎年9月23日には、中央区東支部との親睦ゴルフ大会（東西対抗と呼ぶ）が行われ、互いの近況を語り合う機会となっています。10月には、新たに当支部会員となった先生方を招いて支部役員らとの懇談会が開かれます。この会は過去3年にさかのぼって新たに会員となった先生方が参加できるよう配慮されています。

昨年11月には会員およびその家族の参加を募って初めてのワイン会が開催され予想以上の盛況で、今年からは開催回数を増やしてほしいとの意見が寄せられています。

2月には毎年ボーリング大会が行われます。会員の先生に各医療機関の職員を加えた大会の参加者は100名を越え、ボーリング後の親睦会は、普段は電話を通してやりとりをしている医療機関の職員が互いの顔を間近に見ながら鍋をつつき遠慮なく話ができるとても良い時間となっています。初代支部長の藤田先生の「和を大切に」の基本方針は、いつまでも当支部に受け継がれてゆくことと思います。

当院に勤務して実感すること、 望むこと

札幌市医師会東区支部
札幌道都病院 内科医長
岩田 徳和

当院は2011年より電子カルテが導入され医療業務の円滑化が図られています。また、ナースステーションのオープン化も含めて、各種機器の整備、電動ベッドへの入れ替えなど患者さんにメリットの多い整備もされてきました。特に私が診療にあたる際に助けられていることとして、CF-HQ290Iや新しいMRI機器、optima MR360、シンチグラフィ、Discovery NM 630の導入など診断機器の入れ替えです。病変の診断に際して画像が鮮明というのは何と患者さんのメリットになることかと実感しています。

しかし、それと同時に自分の診断技術、診断能力も問われるわけでありがたいと思う反面、責任重大と実感しています。研究会に出席し、自分の診断技術を向上させようと努力するつもりでおりますが、なかなか理想どおりにはいかず苦勞をすることもあります。ですが、何事も患者さんのためですから頑張ってみようと思っています。

そこで北海道医師会に望むことですが、新しい診断治療技術に関する情報提供、および医療情勢、医療制度の改正についてどんどん分かりやすく情報提供してほしいということ、また、患者さんサイドにも医療について理解を深め、医療者に協力していただけるだけの情報提供をお願いしたいということです。今の世の中、いろいろなメディアや情報システムでばらばらな情報が氾濫しておりますので、そのばらばらな情報をまとめる役割を医師会にはくれぐれもお願ひしたい。そんな思いでおります。生意気なことを申しましたが、私も医師会の一員として、微力ですが、尽力できればと思っております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。